

令和7年度 看護学部 編入学(助産師養成特別)

【出題意図】

- ・ 選択肢のある問題や適切な語句や数値を記載する問題では母性看護学の基本的知識を問う。
- ・ 記述で回答を求める問題は、母性看護学の知識を、自身の言葉で正確かつ簡潔に説明させることで、基本的知識の理解度及び記述能力を問う。

1

問1 1

問2 ① 視診 ② 触診 ③ 打診 ④ 聴診

問3 2

問4 1. ○ 2. × 3. ○ 4. ×

2

問1 1, 3

問2 4

問3

【解答例】下記のような内容から4つ述べていること。

- ・ 血圧の管理、血圧が変動する動作を避ける。
(排便コントロールや入浴時の注意(脱衣所を温める、湯の温度(ぬるめ)、長湯をさけるなど)
- ・ 治療の遵守(薬物・食事・運動療法)
運動療法(再発作のリスク低減のため、有酸素運動など、適度な運動をする)
食事療法(減塩、脂質・エネルギー調整を踏まえて、バランスよく規則正しく摂る)
薬物療法(処方された内服薬の服薬の遵守)
- ・ 禁煙するよう説明する。
- ・ 定期受診を継続する。
- ・ 再発作の徴候を伝え、再発作の徴候が見られたら速やかに病院に報告するまたは受診する。
- ・ 職場復帰は無理のないように徐々に進めていく。

3

問1 1. ウ 2. エ 3. ア 4. イ

問2 1. イ 2. ア 3. ウ 4. エ

4

問1 計算式： $15000 \div (95 \times 95) \times 10 = 16.62$

解答：16.6

問2 1. × 2. × 3. ○

5

問1

【解答例】介護予防サービスが利用可能な状態。基本的な日常生活動作は自分で行えるが、一部動作に見守りや手助けが必要な状態である。(58文字)

問2

【解答例】①浴槽につかるよりもシャワー浴の方が呼吸への負担は少ない。

②椅子に座って呼吸を整えながら更衣をした方が、呼吸への負担が少ない。

③入浴は身体への負荷が大きく、とくに洗髪時は腕が肩より上がっていたり、顔が下に向いたりすると呼吸が苦しくなる。洗髪時も鼻カニューレを装着し、医師に指示された酸素流量を守るようにする。

④酸素カニューレをつけたまま入浴をするため、管が塞がらないように浴室の扉は開けておく必要がある。換気が悪いと息苦しくなるため、換気目的にもなる。

6

【解答例】地域連携クリニカルパスの目的は、医療機関から在宅までの医療の継続的な提供である。急性期病院から回復期リハビリ病院を経て早期に自宅に帰れるような「診療計画」を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して使用するものである。

7

【解答例】

労働者災害補償の観点から労働基準法で分類し定められた疾病のことで、使用者は労働者の疾病の発症要因が業務上と判定された場合、その疾病に必要な療養費用を負担しなければならない(労働基準法 75 条)。(95 字)

8

【解答例】下記の内容が述べられていること。

- ・ 各ホルモンの分泌場所(臓器)と作用(働き)について正しく記述されていること
- ・ 月経周期として、子宮内膜の変化も述べられていること

9

- 問 1 ① 母体保護 ② 人工妊娠中絶
問 2 ① 22 ② 早期新生児死亡

10

問 1 : 3

問 2

【解答例】 下記の内容に類似したことが解答に含まれていること。

- ・ 腰痛が起こる原因が記述されていること（例：子宮の増大や体重増加による重心の変化，ホルモンの影響による骨盤を支える筋肉・結合組織が弛緩して支持力が低下等）
- ・ アセスメントに必要な項目が記述されていること（例：疼痛の程度や日常生活への影響，仕事や家事での立ち仕事や同じ姿勢を続けていないか等）
- ・ 腰痛の対策が記述されていること（例：正しい姿勢，履物への留意，長時間同一姿勢は避ける，マタニティガードル等の使用，四つん這いの姿勢で腰をゆっくりと動かす運動等）
- ・ 医師に報告が必要な状況が記述されていること（例：子宮収縮を伴う腰痛の場合等）

問 3

【解答例】 下記の内容が述べられていること。

- ・ 労働基準法第 65 条「産前産後」に関する説明が記述されていること
- ・ 労働基準法第 67 条「育児時間」に関する説明が記述されていること

11

問 1 : 2

問 2 :

【解答例】 下記の内容に類似したことが述べられていること。

- ・ 順調な分娩経過を促すために必要な看護が記述されていること（例：座位や立位などの体位の工夫や，基本的なニーズの充足に対する看護）
- ・ 産痛の増強に伴う産婦の不安や緊張を緩和するための看護が記述されていること（例：マッサージや呼吸法，アクティブチェアを使用等）

問3

(1) 【解答例】下記の内容に類似したことが述べられていること。

Cさんは現在子宮復古が不良気味であり、すでに490gの出血量が確認されていることから、胎盤娩出後2時間までに500g以上の出血が予測される。そのため、子宮復古を促すケア（子宮底の輪状マッサージ等）の実施や悪露の状態を注意深く観察することが記述されていること。

(2) 【解答例】下記の内容に類似したことが述べられていること。

産婦等へ事前説明の上で実施することや、医療関係者が母子の継続的な観察が行うことが可能な状態にあること、新生児のSpO2センサーの装着などによる継続的なモニタリングを行いながら実施すること、母親も児の状態を観察することが可能な状態で実施すること等が記述されていること。

12

問1 : 2, 4

問2 : 3

13

問1 : 2

問2 : 3

問3

【解答例】下記の内容に類似したことが述べられていること。

産後うつ病を早期に診断するために一次スクリーニングとして使用する。10項目から成る自己記入式の質問票で、うつ病の中核症状である抑うつ、興味の低下の要素が含まれる。過去1週間の精神状態を10項目について採点することにより、患者の状態を評価するものである。合計点数が9点以上を産後うつ病の疑いとして取り扱うのが適切とされている。自傷にかかわる項目（No.10）に点数がついた場合には、自殺企図の可能性があるとして詳細に問診する必要がある。うつ病の確定診断ではなく、また得点は重症度を示すものではない。

14

【解答例】 下記の内容が記述されていること。

- ・ 胎児期の循環の具体が記述されていること。
- ・ 出生後に肺呼吸が開始することにより、胎児循環から新生児循環へ移行する具体が記述されていること。

15

【解答例】 下記の内容に類似したことが記述されていること。

問 1

肺界面活性物質ともいう。肺サーファクタントは妊娠 24 週目頃から胎児の肺胞の表面のⅡ型上皮細胞から分泌し活性化し始める。妊娠 34 ～36 週の間に、胎児の肺は十分な肺サーファクタントで満たされるようになる。出生後に空気が入ると、空気との境目にリン脂質の膜を形成して肺胞が虚脱するのを防ぐ。つまりサーファクタントが気体液体の境界面における表面張力を弱め、肺胞の虚脱を防ぐ。新生児が呼吸を確立し維持するためには、胎児期に、肺胞の発達と肺サーファクタントの産生が十分であることが必要となる。

問 2

新生児特有の生理的現象で、生後数日間の間に出生時体重の 5 ～10 %減少することをいう。生理的体重減少は摂取エネルギーに比して、不感蒸泄や胎便、尿の排泄などが多いことで生じる。母乳栄養等のエネルギー摂取が順調に進めば、生後 3 ～5 日の間に体重は増加しはじめ、およそ 1 ～2 週間で生下時体重に戻る。